

平成23年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要

[採択時公表]

機関名	大阪大学	機関番号	14401			
1. 全体責任者 (学長)	(ふりがな) わした きよかず 氏名・職名 鷲田 清一・学長					
2. プログラム責任者	(ふりがな) ひがしじま きよし 氏名・職名 東島 清・副学長(教育担当) (平成23年8月26日就任予定)					
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) ひらさわ やすまさ 氏名・職名 平沢 安政・教授(人間科学研究科人間科学専攻)					
4. 申請類型	A <オールラウンド型>					
5.	プログラム名称	超域イノベーション博士課程プログラム				
	英語名称	Cross-Boundary Innovation Program				
	副題					
6. 授与する博士学位分野・名称	専攻分野：文学、人間科学、法学、経済学、応用経済学、経営学、理学、医学、看護学、保健学、歯学、薬学、臨床薬学、工学、言語文化学、日本語・日本文化、国際公共政策、情報科学、生命機能学、学術 付記する名称：超域イノベーション博士課程プログラム					
7. 主要分科	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;"></td> <td style="width:33%; text-align:center;">(2)</td> <td style="width:33%; text-align:center;">(3)</td> </tr> </table> ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 総合領域分野全分科、複合新領域分野全分科、人文学分野全分科、社会科学分野全分科、数物系科学分野全分科、化学分野全分科、工学分野全分科、生物学分野全分科、農学分野全分科、医歯薬学分野全分科				(2)	(3)
	(2)	(3)				
8. 主要細目	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%; text-align:center;">(1)</td> <td style="width:33%; text-align:center;">(2)</td> <td style="width:33%; text-align:center;">(3)</td> </tr> </table> ※ オールワン型は太枠に主要な細目を記入			(1)	(2)	(3)
(1)	(2)	(3)				
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科文化形態論専攻、同文化表現論専攻、人間科学研究科全専攻、 法学研究科法学・政治学専攻、経済学研究科全専攻、理学研究科全専攻、 医学系研究科医学専攻、同保健学専攻、歯学研究科全専攻、 薬学研究科分子薬科学専攻、同応用医療薬科学専攻、同生命情報環境科学専攻、 工学研究科全専攻、基礎工学研究科全専攻、言語文化研究科全専攻、 国際公共政策研究科全専攻、情報科学研究科全専攻、生命機能研究科生命機能専攻					
10. 共同教育課程を構想している場合の共同実施機関名						
11. 連合大学院として参画または構想する場合の共同実施機関名						
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	パナソニック株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション、 株式会社キャンサーキャン、株式会社健康都市デザイン研究所、アスリートネットワーク、 独立行政法人国際協力機構					

15. プログラム担当者 計 68名					
※他の大学等と連携した取組(共同申請を含む)の場合:申請(基幹)大学に所属するプログラム担当者の割合 [88.2 %]					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成24年度における役割)
(プログラム責任者) 東島 清	ヒガシジマ キヨシ		副学長(教育担当)(平成23年8月26日就任予定)、現在、理学研究科・研究科長、物理学専攻・教授	物理学 理学博士	プログラムの責任者
(プログラムコーディネーター) 平沢 安政	ヒラサワ ヤスマサ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	生涯教育学・人権教育学 Ed.D(教育学)	プログラムの統括
小泉 潤二	コイズミ ジュンジ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授(平成23年8月25日まで副学長(教育担当))	文化人類学 Ph.D(人類学)	プログラムの企画と運営
小林 傳司	コバヤシ タダシ		コミュニケーションデザイン・センター・教授	科学哲学・科学技術社会論 理学修士	プログラムの企画と運営
藤田 喜久雄	フジタ キチオ		工学研究科・機械工学専攻・教授	設計工学 工学博士	プログラムの企画と運営
平田 オリザ	ヒラタ オリザ		コミュニケーションデザイン・センター・教授	演劇	プログラムの企画と改善
大竹 文雄	オオtake フミオ		社会経済研究所・教授	労働経済学・行動経済学 博士(経済)	プログラムの企画と改善
正城 敏博	マサキ トシヒロ		産学連携本部・総合企画推進部・知的財産部・教授	産学連携・知的財産 博士(工学)	プログラムの企画と改善
佐藤 宏介	サトウ コウスケ		基礎工学研究科・システム創成専攻・教授	計測工学 工学博士	プログラムの企画と運営
塔之岡 康雄	タノオカ ヤスオ		パナソニック株式会社 人事グループ・人材開発チーム・チームリーダー	採用・人事政策企画	プログラムの開発支援と点検
高橋 広明	タカハシ ヒロアキ		パナソニック株式会社 人材開発カンパニー・グローバル経営研修センター・所長	グローバル人材育成	プログラムの開発支援と点検
伊藤 宏幸	イトウ ヒロユキ		ダイキン工業株式会社テクノロジー・イノベーションセンター推進室・技術企画担当課長	共同研究開発・技術経営企画	プログラムの開発支援と点検
野崎 新吾	ノザキ シンゴ		株式会社ベネッセコーポレーション 大阪支社・支社長	教育事業	プログラムの開発支援と点検
福吉 潤	フクヨシ ジュン		株式会社キャンササスキャン 代表取締役	リサーチマーケティング・フットウェア・アップ MBA	プログラムの開発支援と点検
井垣 貴子	イガイ キコ		株式会社健康都市デザイン研究所 代表取締役	都市政策・環境デザイン・医療福祉計画 修士(都市政策学)	プログラムの開発支援と点検
岡本 依子	オカモトヨリコ		アスリートネットワーク 理事	テコンドー指導 学士(人間科学)	プログラムの開発支援と点検
酒井 利文	サカイ トシフミ		独立行政法人国際協力機構 大阪国際センター・所長	国際交流事業	プログラムの開発支援と点検
宮原 暁	ミヤハラ キョウ		グローバルコラボレーション・センター・准教授	社会人類学 博士(社会人類学)	プログラムの開発と改善
上田 晶子	ウエダ アキコ		グローバルコラボレーション・センター・特任准教授	開発学 博士(開発学)	プログラムの開発と改善
瀬戸山 晃一	セトヤマ コウイチ		国際教育交流センター・准教授	法学・生命倫理 博士(法学)	プログラムの開発と改善
松行 輝昌	マツユキ テルマサ		学祭融合教育研究センター・准教授	フットウェア・アップ M.A.	プログラムの開発と改善
太刀掛 俊之	タチカケ トシユキ		教育・情報室・准教授	応用心理学 修士(人間科学)	プログラムの開発と改善
平井 啓	ヒライ ケイ		大型教育研究プロジェクト支援室・講師	行動医学 博士(人間科学)	プログラムの開発と運営
堤 研二	ツツミ ケンジ		文学研究科・文化形態論専攻・教授	人文地理学 博士(文学)	学生の履修支援と育成
藤田 治彦	フジタ ハルヒコ		文学研究科・文化表現論専攻・教授	美学・芸術学 学術博士	学生の履修支援と育成
檜垣 立哉	ヒナキ タツヤ		人間科学研究科・人間科学専攻・教授	哲学・現代思想 文学修士	学生の履修支援と育成
河森 正人	カモリ マサト		人間科学研究科・グローバル人間学専攻・教授	東アジアの高齢者福祉に関する比較研究 博士(創造都市)	学生の履修支援と育成
中山 竜一	ナカヤマ リウイチ		法学研究科・法学・政治学専攻・教授	法理学 法学修士	学生の履修支援と育成
筒井 義郎	ツツイ ヨシロウ		経済学研究科・経済学専攻・教授	行動経済学・金融 経済学博士	学生の履修支援と育成
廣田 誠	ヒロタ マコト		経済学研究科・政策専攻・教授	近代日本経済史 博士(経済学)	学生の履修支援と育成
三道 弘明	ミチノウ ヒロアキ		経済学研究科・経営学系専攻・教授	オペレーションズ・リサーチ・マネジメント・サイエンス 学術博士、博士(工学)	学生の履修支援と育成
大鹿 健一	オオシカ ケンイチ		理学研究科・数学専攻・教授	位相幾何学 理学博士	学生の履修支援と育成
下田 正	シメダ タダシ		理学研究科・物理学専攻・教授	原子核物理学 理学博士	学生の履修支援と育成

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成24年度における役割)
小川 琢治	カガワ タクジ		理学研究科・化学専攻・教授	有機化学、ナノ化学 理学博士	学生の履修支援と育成
柿本 辰男	カキモト タツオ		理学研究科・生物科学専攻・教授	生物学 博士(理学)	学生の履修支援と育成
今田 勝巳	イマダ カミ		理学研究科・高分子科学専攻・教授	生体高分子構造 博士(理学)	学生の履修支援と育成
土山 明	ツチヤマ アキラ		理学研究科・宇宙地球科学専攻・教授	鉱物学 理学博士	学生の履修支援と育成
宮崎 純一	ミヤザキ ジュンイチ		医学系研究科・医学専攻・教授	発生再生医学 理学博士	学生の履修支援と育成
三善 英知	ミヨシ イチ		医学系研究科・保健学専攻・教授	生化学、消化器内科学 博士(医学)	学生の履修支援と育成
今里 聡	イマサト サトシ		歯学研究科・統合機能口腔科学専攻・教授	歯科材料学、生体材料学 博士(歯学)	学生の履修支援と育成
天野 敦雄	アマノ アツオ		歯学研究科・分子病態口腔科学専攻・教授	予防歯科学 歯学博士	学生の履修支援と育成
宇野 公之	ウノ タカユキ		薬学研究科・分子薬科学専攻・教授	薬品分析化学、生物物理化学 博士(薬学)	学生の履修支援と育成
橋本 均	ハシモト ヒトシ		薬学研究科・応用医療薬科学専攻・教授	分子神経薬理学 博士(薬学)	学生の履修支援と育成
平田 収正	ヒラタ カスマサ		薬学研究科・生命情報環境科学専攻・教授	応用環境生物学 博士(薬学)	学生の履修支援と育成
菊地 和也	キクチ カズヤ		工学研究科・生命先端工学専攻・教授	ケミカルバイオロジー 博士(薬学)	学生の履修支援と育成
生越 専介	オゴシ センスケ		工学研究科・応用化学専攻・教授	有機金属化学 博士(工学)	学生の履修支援と育成
高原 淳一	タカハラ ジュンイチ		工学研究科・精密科学・応用物理学専攻・教授	ナノフォトニクス 博士(工学)	学生の履修支援と育成
中谷 彰宏	ナカニ アキヒロ		工学研究科・知能・機能創成工学専攻・教授	機械工学・変形体の力学 博士(工学)	学生の履修支援と育成
金子 真	カネコ マコト		工学研究科・機械工学専攻・教授	ハイパーヒューマン工学 工学博士	学生の履修支援と育成
平田 好則	ヒラタ コシノリ		工学研究科・マテリアル生産科学専攻・教授	加工物理学 工学博士	学生の履修支援と育成
尾崎 雅則	オザキ マサノリ		工学研究科・電気電子情報工学専攻・教授	電子工学 工学博士	学生の履修支援と育成
黒崎 健	クロサキ ケン		工学研究科・環境・エネルギー工学専攻・准教授	原子力工学、環境エネルギー-材料工学 博士(工学)	学生の履修支援と育成
常田 賢一	トキダ ケンイチ		工学研究科・地球総合工学専攻・教授	地盤耐震工学 博士(工学)	学生の履修支援と育成
加賀 有津子	カガ アツコ		工学研究科・ビジネスエンジニアリング専攻・教授	建築・都市計画、空間情報学 博士(工学)	学生の履修支援と育成
田谷 正仁	タヤ マサヒト		基礎工学研究科・物質創成専攻・教授	生物化学工学 農学博士	学生の履修支援と育成
三宅 淳	ミヤケ ジュン		基礎工学研究科・機能創成専攻・教授	生物物理学、細胞工学、バイオエネルギー工学 理学博士	学生の履修支援と育成
上田 功	ウエダ イサオ		言語文化研究科・言語文化専攻・教授	言語学 文学修士	学生の履修支援と育成
杉田 米行	スギタ ヨネユキ		言語文化研究科・言語社会専攻・准教授	日米関係、日本医療保険制度史、アメリカ外交 Ph.D. (U.S. History)	学生の履修支援と育成
野村 美明	ノムラ ヨシアキ		国際公共政策研究科・国際公共政策専攻・教授	国際私法、国際取引法、国際経済法、紛争解決法、リサーチ 法学修士	学生の履修支援と育成
赤井 伸郎	アカイ ノブオ		国際公共政策研究科・比較公共政策専攻・教授	公共経済学、財政学 博士(経済学)	学生の履修支援と育成
日比 孝之	ヒビ タカユキ		情報科学研究科・情報基礎数学専攻・教授	組合せ論 理学博士	学生の履修支援と育成
森田 浩	モリタ ヒロシ		情報科学研究科・情報数理学専攻・教授	オペレーションズ・リサーチ 博士(工学)	学生の履修支援と育成
萩原 兼一	ハギハラ ケンイチ		情報科学研究科・コンピュータサイエンス専攻・教授	ハイパフォーマンスコンピューティング 工学博士	学生の履修支援と育成
今井 正治	イマイ マサル		情報科学研究科・情報システム工学専攻・教授	情報システム学 工学博士	学生の履修支援と育成
東野 輝夫	ヒガシノ テルオ		情報科学研究科・情報ネットワーク学専攻・教授	情報工学 工学博士	学生の履修支援と育成
細田 耕	ホシダ コウ		情報科学研究科・マルチメディア工学専攻・教授	ロボティクス 博士(工学)	学生の履修支援と育成
松田 秀雄	マツダ ヒデオ		情報科学研究科・バイオ情報工学専攻・教授	バイオインフォマティクス 学術博士	学生の履修支援と育成
濱田 博司	ハマダ ヒロシ		生命機能研究科・生命機能専攻・教授	発生生物学 医学博士	学生の履修支援と育成

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】

「専門分野の枠を超え、俯瞰力と独創力を備え、広く政財官学にわたりグローバルに活躍するリーダーの育成」が大学院教育に求められている。そこで、本学位プログラムでは、さまざまな専門領域、国境、既成観念、相場観といった「境域」を超えて社会システムの変革を導くイノベーション、すなわち、「**超域イノベーション**」を牽引するための高度な専門性に支えられた知的体力と勇気を持つグローバルリーダーとなる博士人材の養成を目指す。

【特色】

この「**超域イノベーション博士課程プログラム**」では、超えるべき境域、すなわち解決すべき課題として、1) 専門領域を超える、2) 文字情報偏重を超える、3) 国境を超える、4) 旧来の思考パターンを超える、5) 科学技術決定論を超える、6) 私的利益を超える価値観・倫理観、7) 独善的エリート主義を超える、8) 組織を超える、の8つを位置付ける。本学位プログラムでは、これらの課題を解決する博士人材として、

1. 世界的な視点で、未知の問題や複合的な諸問題を横断的にとらえ、新たな課題を設定できる力
2. その課題を多面的に考察したうえで“解決のためのモデル”(社会のビジョン、ビジネスモデル、基盤となる科学技術の統合等)を描き出すことができる力
3. 自己の専門性や経験に加え、多様なネットワークやリソースを動員して、課題解決に向けたプロセスを適切に駆動できる力
4. 自らの職務と立場に応じた責任のもとに、適切なタイミングで決断できる力
5. これら課題設定・課題解決のための力を支える専門の学問領域における卓越した研究能力

を兼ね備えた人材養成を行う。

そのために本学位プログラムでは、すべての研究科の博士課程学生が応募することができることを基本とし、学生の所属する研究科での専門教育に加えて、専門分野の異なる学生との協働学習により、さまざまな境界(boundary)を超えるための**超域ラーニング**を展開する。そこでは、リーダーがもつべき力量と基礎的能力を先人の経験やインターンシップ、文理越境型の研究室ローテーションなどから学ぶとともに、それらを支える知識として倫理、歴史、社会の仕組み、多文化等を理解し、専門分野の教育を通じて身につけた研究スキルやマネジメントスキルを汎用性のある技能に磨き上げる。グローバルに活動するために必須の言語教育についても、実践的英語運用能力の育成を図るとともに、大阪大学独自の24言語教育リソースのもとで、英語以外の言語も履修させる。

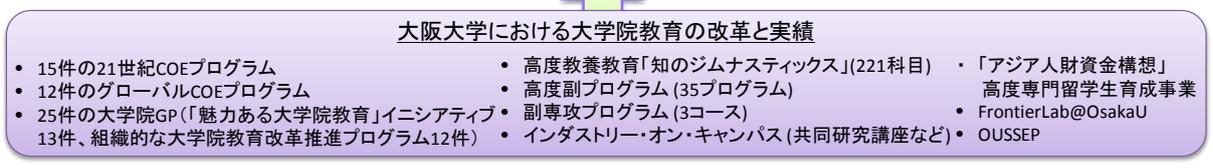
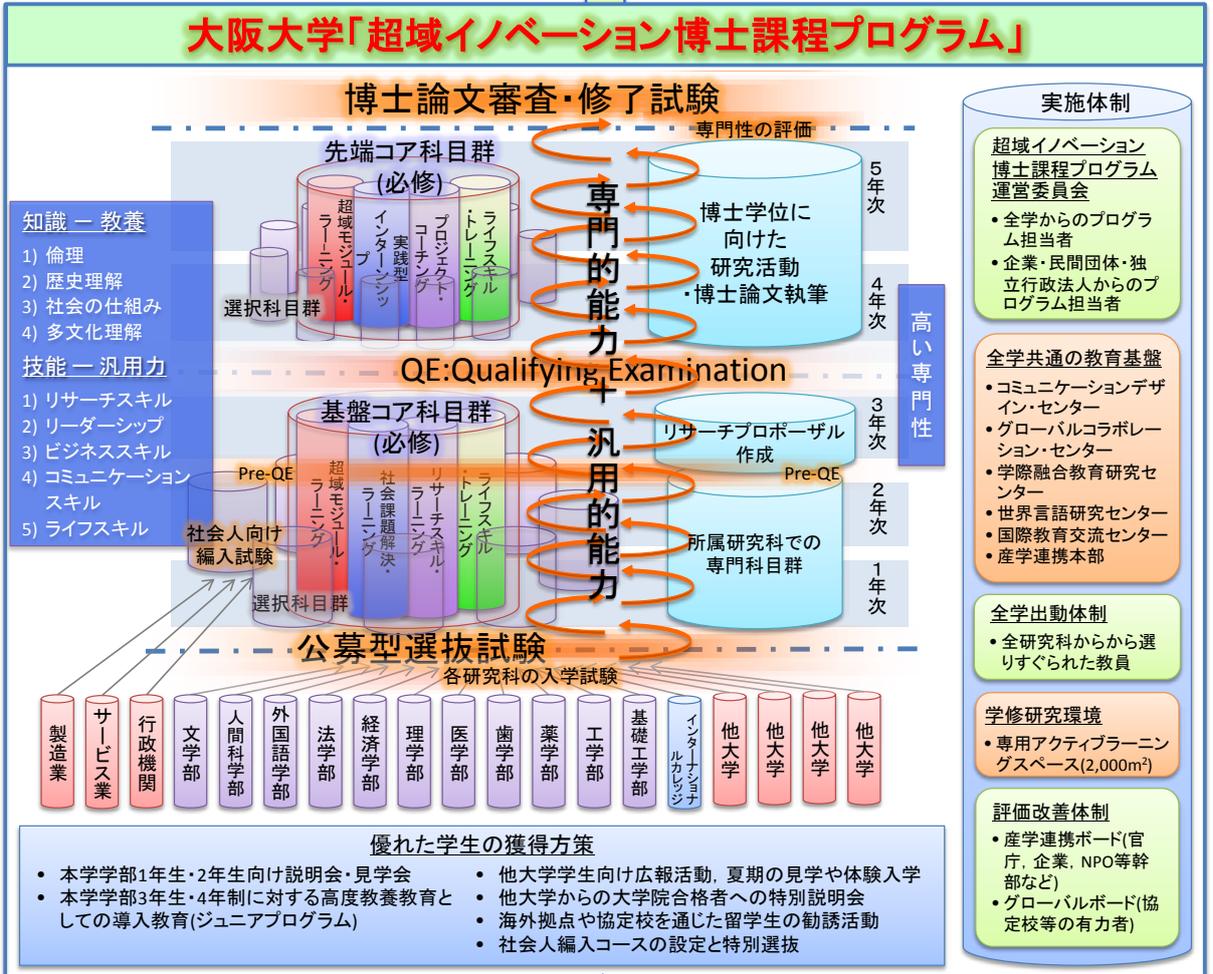
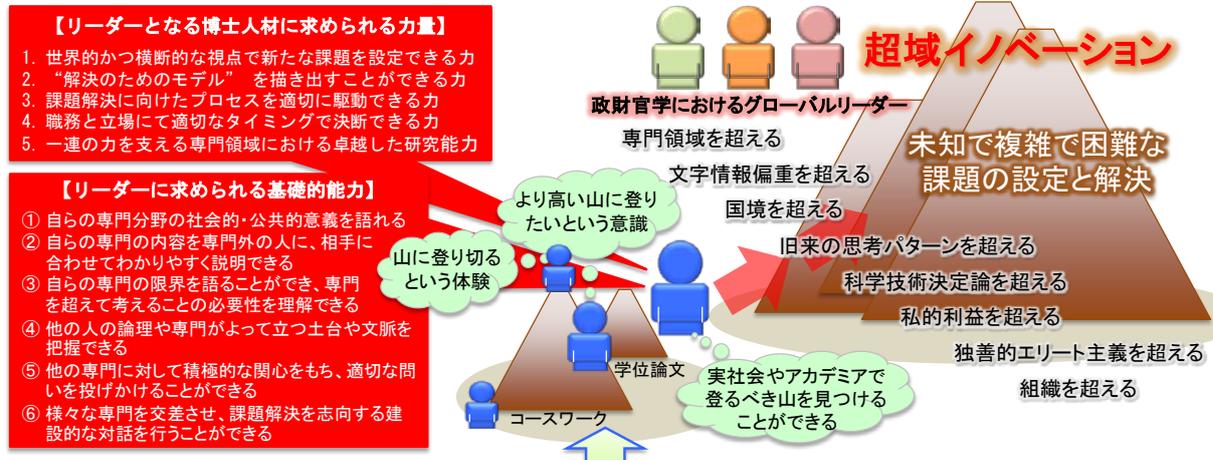
本プログラムは、前期2年、後期3年の博士課程において実施するものであるが、5年一貫プログラムとして、前期課程修了時における修士論文の提出を必須としない。2年次終了までに、それまでの超域ラーニングによるコースワークの達成度と研究進捗状況に基づく Preliminary Qualifying Examination により、後期課程への進学可否を判定する。そして、3年次の Qualifying Examination において、超域イノベーションを牽引する博士候補生となり得るかを総合的に判定し、その後の発展的な学修と研究活動により、政財官学界においてグローバルリーダーとなり得る博士人材を輩出する。

【優位性】

本学位プログラムの第一の優位性は、単なる文理統合プログラムからは生まれ得ない、「**超域イノベーション**」を起こす力量と基礎的能力を身に付けた博士人材を養成するという**高い目標**にある。大阪大学は、そのための高度な教育内容を開発し、実施するために必要な、多様な経歴と高い見識をもつ教員を多数擁している。また、コミュニケーションデザイン教育や学際融合教育、海外派遣教育などのためのシステムを全学的に開発してきた経験をもち、国内外の多様なセクターとの相互理解と協力関係を築いている。つまり、本プログラムは、その高い目標を**達成する体制**、すなわち実現可能性においても優位性をもつ。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



機 関 名	大阪大学
プログラム名称	超域イノベーション博士課程プログラム
<p>〔採択理由〕</p> <p>この構想・計画は、5年一貫教育の課程の中で、全研究科において、専門性を充分身に付け、質の高い博士論文を仕上げることを前提とした上で、専門領域、文字情報の枠、国境、旧来の思考パターン、従来の価値観・倫理観、組織などを「超える」という概念を柱とした副専攻において、自らの専門を他との関係で相対化できる力を備えていくことを目標に、専門分野の異なる学生の協働学習による文理統合的学習を重視する点に特徴があり、多様なリーダーを養成できるものと期待される。</p> <p>産学官を取り込み、プログラムの企画・改善に資する「教育プログラムのオープンイノベーション」は、今後重要となるコンセプトであり、国内外の有識者からなる学外アドバイザリーボードを擁し、幅広い視野を養い得るようプログラムが設計されている点や、キャリアパスの確立に向けた企業や国際機関等とのネットワーク構築に配慮している点も評価できる。</p> <p>さらに、学部教育においてリーダーシップ養成プログラムを実施する点も、本プログラムが大学院の教育にとどまらず全学の教育改善につながるものと期待される。</p> <p>グローバルに活躍するリーダーの養成については、マニュアルが存在しないため、本プログラムを通じてその具体化が行われることが期待される。</p>	